

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームらい鳥		
所在地	〒071-8134北海道旭川市末広4条7丁目5番5号末広介護支援館ANNEX2階3階		
自己評価作成日	平成27年3月19日	評価結果市町村受理日	平成27年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

棟内は、広過ぎずリビングを中心として居室があり行き来しやすい。
対面式キッチンでリビングの様子や居室からの出入の様子も把握しやすい。
立地面では、近所にスーパー、美容室、飲食店、歯科、提携先のクリニックあり、利便性が高い。
毎日、入居者の皆さんと職員がふれ合う時間がある。和やかな雰囲気がある。
日課で、午前・午後に体を動かす時間があり、心身の活性化にも努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して15年が経過している「グループホームらい鳥」は、協力医である医療法人が隣接している為、利用者・家族にとって安心の場所となっている。末広介護支援館ANNEXの2階と3階にあり、窓から見える景色も良く、幹線道路に面している事で交通量が多いが、日常の動きを感じとる事が出来る。スーパーも近くにあり恵まれた立地となっている。新しい管理者は就いて6か月だが、前向きな姿勢で利用者の安心安全の生活継続の為に努めている。2階にあるユニットは、現在職員不足により利用者の入居が制限されているが、職員の笑顔で利用者へ寄り添ったケアに努めている。利用者の笑顔を求め、利用者も職員も言いたい事を言い合える関係が続いている。職員が足りない事もあり、十分に外出する事が出来なかった事を理解しており、今後は対応できるように検討が図られている。地域との信頼関係作りも前進の兆しがあり、期待される場所である。

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有している	管理者は職務に就く前に、実践者研修を受講し理念の大切さについて学んだことから、職員と現在の理念の意義を再確認する事で、共有し実践に繋げている。今後は、らい鳥として特徴ある理念を、職員と一緒に作り上げようと検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほとんど行えてないも、行事の時に大正琴等呼んで来て頂いている。	これまで町内の運営推進会議への参加が得られなかったことから、管理者は直接出向き、協力頂けるように取り組んでいる。その結果避難訓練時に見学者として、実情を見て頂いている。人員不足もあり、積極的な働きかけが出来なかった事で現在は、信頼関係作りを始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほとんど行えてない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	充分なものとは言えないが、運営推進会議を通してサービス向上に活かしている。	開催出来ていなかった運営推進会議を、行政や地域包括支援センターの協力で、昨年暮れから3月までに3回開催出来た。町内の方・地域包括支援センター職員・地域のケアマネージャー・看護師が参加し、ホームの現状報告や利用状況、避難訓練の様子が伝えられた。	管理者の努力により、運営推進会議の開催に至っている。議事録は、記載内容充実と、利用者家族へ配布し情報の共有を図る事で、議題の提案や参加の動機付けとなるよう期待したい。地域の方や知見者にも声をかけ、外部の方から意見や提案がもらえるような取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の電話又は窓口に直接出向く場合や地域包括支援センターからの研修の案内があったり、市の保護課職員の定期訪問が有り、情報を伝えている。	管理者は何度も行政窓口を訪問し、運営についての問い合わせ、相談に出かけアドバイスをもらっている。運営推進会議や事故報告の書類を直接届け、保護課とも常に連携を取り、担当者と信頼関係が築けるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めている。	「身体拘束ゼロ」対策マニュアルを作成し、ミーティングで研修している。新人には特に細かく内容を説明し、精神的な行為も含まれることを確認している。病状悪化時に点滴が施され、一時期了承のもとミトンが使われたが、直に終了している。ホームはビルの2・3階にあり、外からは自由に出入りできるが、防犯上中からは職員が解錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、職員同士が申し送り、ミーティングを活用し、話し合うようにつとめている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会を得られてない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時、利用者様の状況変化が起きた時の連絡時に機会を設け、運営に反映させている。	家族の面会は月に1度はあり、来訪された時は職員が寄り添い利用者の様子を詳しく伝えている。職員が伺った内容については記録に残し、全員が確認出来るようにしている。家族からは計画作成時の要望や希望を聞き、意見を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送り時、毎月のユニット合同のミーティング時、各ユニット事に分かれ担当者のモニタリングを行い意見交換をおこなっている。人事考課を取り入れ、考課表に記入し振り返りや意欲の向上に役立てている。	法人管理者会議の後、ユニット合同会議・各ユニット毎にカンファレンスの場を作り、日常の気付きや提案が出せるようにしている。人事考課のしくみもあり、管理者リーダーが中心となり、職員が立てた個人目標について自己評価する事で、意欲の向上に役立てている。法人代表の来訪もあり、直接相談に行く事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、6ヶ月間の振り返り、来年度の目標を立て向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修を定期的に機会の確保を行っている。外部研修に関しては多くはないが行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して多くはないが有り。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通して、その都度本人の要望を傾聴し本人の様子をみてこちらから声掛けするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ケアプラン更新時に行えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、必要な支援があれば職員から情報収集し、サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おしぼりたたみや行事の掲示物等、職員と一緒に共同作業を行い暮らしを共に知る者同士、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行する広報誌、電話、面会時にその都度、状況について報告、相談しながら、共に本人を支えていくよう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に面会者が訪問した時は、居室にてお茶を飲みながらゆっくりと過ごせる空間がもてるよう支援している。	歌の好きな利用者と一緒に歌ったり、得意だった調理のアドバイス、食事の準備等をしてもらっている。絵を描く事が趣味だった方は、現在は難しくなっている為、居室にたくさん掲示する事で以前を振り返る機会としている。面会に訪問された方との交流も、大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、食事以外の他にも利用者同士がコミュニケーションが図れるような時間の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送り、月1回の定例ミーティング、介護記録を活用し、職員全員で検討・意向の把握をしている。	紹介者からの情報と家族から聞き取った情報を基に、入居後はセンター方式の活用で思いや意向の把握に努めている。更新時に再アセスメントし、経過の変化を把握できるようにしている。日常の様子や会話等から気付く事も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族、知人が来訪時に話をし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録・日報により現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、家族との連絡調整を行い本人・家族の意向をもとに職員全員で話し合い、介護計画を作成している。	職員は毎日の記録に添付されている介護計画書の写しを参考にしながら、サービス内容の確認記録をしている。見直し時期に計画作成担当者が中心になり、担当職員が記入した「ケア課題点」を参考に全員で話し合い、利用者の思いに添った介護計画を作成している。	職員が記載する日報の書式は1枚のシートで網羅できるようになっているが、重複して記入する項目もある。介護職員が支援した内容の確認は、今後のモニタリングや評価に連動されないの、短期目標に沿った利用者の状況について記載出来るよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今、現状行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今、現状おこなえていないため、地域包括支援センター、町内の方より情報を集め、これからしてけるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2～3回の往診があり、通院での年3回の健康診断も受けている。	連携の協力医が主治医である利用者が多く、継続して往診の対応を続けている。他のかかりつけ医の利用者の受診には、職員が同行し身体状況を伝え医師から説明を聞いている。訪問看護の定期的な健康管理も続けられ、その後、変化があった時は家族に連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の往診時、特変に24時間体制で看護職員や訪問看護師に相談できるような体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書、介護添書、電話を通して情報交換できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明・書面での確認をしている。	重度化や終末対応については、取り組む体制となっているが、これまで経験はなく連携の病院で最期を迎えられた方もいる。利用開始時に日常の健康管理・急変時の対応・終末期の対応が記載された意向確認書で説明している。職員教育にも力を入れ、マニュアルを用意し研修している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルをすぐ閲覧できる場所に置いてる。応急手当や初期対応の訓練は定期的に行えてない。4月に救命救急講習を計画している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現状、不十分ではあるも避難訓練に地域の方にも参加していただく等協力体制を築けるよう努力している。	防災会社の協力で、年2回ビルの事業所全体で避難訓練を行っている。備蓄物品についても準備を進め、体制作りを行っている。公共避難場所や地域のハザードマップを入手するなど、自然災害について今取り組める内容の収集に努めている。	地域との交流が進まなかった事もあるが、年内に行われた避難訓練には町内の方に見学して頂く事が出来ている。今後も地域との協力関係作り、様々な自然災害に対応できるように、検討の継続・対策について話し合う事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳やプライバシー保護については、ミーティング等を活用し、職員全員が意識付けするようにしている。	研修やミーティングの席で人格の尊重やプライバシー保護について確認している。職員は十分に理解しており、丁寧に語りかけ人としての尊厳を忘れていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を基本とし、自己表現がうまくできない方には、自己決定できるように、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションを活用し自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、個々の希望を取り入れられるよう、コミュニケーションを図り、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、モーニングケア時、毎月、訪問理容に来てもらい身だしなみを整えている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のこのみや力に合わせたお手伝いをして頂き食事が楽しみなものになるようにしている。	利用者が食事し易いようにトレーを高くしたり、食事の時には車椅子から食卓椅子に移乗する事で、場面作りの工夫をしている。同じ食事を職員と一緒に食べ、面会の家族が食事介助で同席する等、会話を楽しみながらの雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療との連携、栄養士によるバランス管理、こまめな水分補給を個々の状態や力に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの促しをし口腔内の清潔保持を行っている。又は利用者本人のADLに応じて口腔ケアをしていただき出来ない部分は介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録、申し送り、ミーティングを活用し、個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立に向け声掛け支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方のペースに合わせた声かけ誘導をしている。歩行器で自立排泄が可能な方には、トイレを改造して環境を整え、職員は危険がないように見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前に軽体操・午後ラジオ体操を行い体を動かし、可能な利用者によっては歩行運動を行い便秘予防に努めている。こまめな水分補給や個々の食事wp食べ易い形態にし提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しんで拒否なく入浴出来るよう個々に合わせたタイミング個々にそった支援をしている。	重度化しても浴槽に入れるように複数対応で支援し、入浴中の会話を大切にコミュニケーション作りに努めている。拒否傾向の利用者には、足浴や清拭から段階を踏みながら、利用者が入浴を楽しみと感じてもらえるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の工夫、室温調整し入眠しやすいに支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携をとり、把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べ物に関しては身体に影響しない程度に本人に意向に添って提供し、日々の行事、レクに取り入れている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は夏場に玄関前で花火大会をしたのみで不足している。日頃では近隣のスーパーへ嗜好品を買いに行ったりし外出の機会を増やしている。家族支援により日頃では行けない所への外出をされている方もいる。	年間計画として行事の予定はあるが、人員不足もあり26年度は、ビル前の花火のイベントのみとなっている。グループホーム内で行うイベントを中心に、楽しめる機会を多くしている。玄関先に出て外気浴出来る事もあるが、閉じ籠りに繋がる事は職員も十分に理解しており、改善に向け検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の希望や力に応じて、お金を所持したり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話、手紙で連絡出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事時に、利用者と共に掲示物を作成しデイルームに掲示し季節感を感じていただけるように工夫し、利用者が心地よく暮らせるよう、清潔感のある空間をつくるよう心掛けている。	リビングは居室と近く、寛いでいる利用者に職員がどこにいても目が届く配置となっている。明るいリビングで利用者はのんびりと過ごせるようにソファが配置され、季節毎に職員手作りの装飾も施されている。室温や湿度、清掃にも気を使い、出来る事は利用者と一緒にやっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや書棚、テーブルを設置し憩いの場を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の思い出の品、使い馴れた物、好みの物をしようしていただき、本人が居心地よく過ごしていただけよう工夫している。	各居室は適度な広さで、馴染みの家具や衣類が持ち込まれ、その人らしさにあふれた過しやすい空間となっている。職員が作成した誕生日のメッセージプリントが、各部屋に掲示され、皆に祝福されている事が判り微笑ましい。寝具やリネン類は毎週業者によって交換され、気持ちよく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内はバリアフリーになっているため行動には制限は受けず、トイレにはトイレマークが掲示してあり判るようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームらい鳥		
所在地	〒071-8134北海道旭川市末広4条7丁目5番5号末広介護支援館ANNEX2階3階		
自己評価作成日	平成27年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3F アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほとんど行えてないも、行事の時に大正琴等呼んで頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほとんど行えてない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	充分なものとは言えないが、運営推進会議を通してサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の電話又は窓口へ直接出向く場合や地域包括支援センターからの研修の案内があったり、市の保護課職員の定期訪問が有り、情報を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	止むを得ない場合のみ対応し本人にとって最低限の拘束になるよう努め、必ず承諾を頂いてから実施。拘束対象となった後も廃止に向けて都度検討するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、職員同士が申し送り、ミーティングを活用し、話し合うようにつとめている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学ぶ機会を得られてない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時、利用者様の状況変化が起きた時の家族への連絡時、面会時に機会を設け、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送り時、毎月のユニット合同のミーティング時、各ユニット事に分かれ担当者のモニタリングを行い意見交換をおこなっている。人事考課を取り入れ、考課表に記入し振り返りや意欲の向上に役立てている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、6ヶ月間の振り返り、来年度の目標を立て向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修を定期的に機会の確保を行っている。外部研修に関しては多くはないが行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して多くはないが有り。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通して、その都度本人の要望を傾聴し本人の表情や様子をみてこちらから声掛けするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ケアプラン更新時に行えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、必要な支援があれば職員からも情報収集し、サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事前の片付け職員と一緒に共同作業を行い暮らしを共に知る者同士、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行する広報誌、電話、面会時にその都度、状況について報告、相談しながら、共に本人を支えていくよう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に面会者が訪問した時は、居室にてお茶を飲みながらゆっくりと過ごせる空間がもてるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、食事以外の他にも利用者同士がコミュニケーションが図れるような時間や場所の構築に努めている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送り、月1回の定例ミーティング、介護記録を活用し、職員全員で検討・意向の把握をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、家族、知人が来訪時に話をしたり、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録・日報により現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、家族との連絡調整を行い本人・家族の意向をもとに職員全員で話し合い、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今、現状行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今、現状おこなえていないため、地域包括支援センター、町内の方より情報を集め、これからしてけるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2～3回の往診があり、通院での年3回の健康診断も受けている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の往診時、特変に24時間体制で看護師や訪問看護師に相談できるような体制を整っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書、介護添書、電話での情報交換できるよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明・書面での確認をしている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応マニュアルをすぐ閲覧できる場所に置いている。応急手当や初期対応の訓練は定期的に行えてない。4月に救命救急講習を計画している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現状、不十分ではあるも避難訓練に地域の方にも参加していただく等協力体制を築けるよう努力している。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳やプライバシー保護については、ミーティング等を活用し、職員全員が意識付けするようにしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を基本とし、自己表現がうまくできない方には、自己決定できるように、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションを活用し自己決定できるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度、個々の希望を取り入れられるよう、コミュニケーションを図り、支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、モーニングケア時、入浴後や毎月、訪問理容に来てもらい身だしなみを整えている。			

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食前後におしぼりたみや食器片付けや時々食事の下準備を職員と一緒に共同作業を行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療との連携、栄養士によるバランス管理、こまめな水分補給を個々の状態や力に応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの促しをし口腔内の清潔保持を行っている。又は利用者本人のADLに応じて口腔ケアをしていただき出来ない部分は介助を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録、申し送り、ミーティングを活用し、個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立に向け声掛け支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前に軽体操・午後にラジオ体操を行い体を動かし、可能な利用者によっては歩行運動を行い便秘予防に努めている。こまめな水分補給や個々の食事wp食べ易い形態にし提供している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しんで拒否なく入浴出来るよう個々に合わせたタイミング個々にそった支援をしている。曜日や時間に関しては職員の勤務形態の状況に合わせて支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の工夫、室温調整し入眠しやすいよに支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携をとり、把握するよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べ物に関しては身体に影響しない程度に本人に意向に添って提供し、日々の行事、レクに取り入れている。			

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足により玄関前の花火レクしか、行えてない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の希望や力に応じて、お金を所持したり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話、手紙で連絡出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事時に、利用者と共に掲示物を作成しデイルームに掲示し季節感を感じていただけるように工夫し、利用者が心地よく暮らせるよう、清潔感のある空間をつくるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや書棚、テーブルを設置し憩いの場を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の思い出の品、使い馴れた物、好みの物をしようしていただき、本人が居心地よく過ごしていただけよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内はバリアフリーになっているため行動には制限は受けず、トイレにはトイレマークが掲示してあり判るようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム らい鳥

作成日：平成 27年 4月 6日

市町村受理日：平成 27年 4月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	問題点：地域の方が運営推進会議が開催されている事を把握されていない点 課題点：地域の方へどう発信していくか。	次年度は、地域の多くの方に運営推進会議に参加していただけるよう定着させる。	年間の開催月を決め、利用者家族や地域住民の方、外部施設の方へ参加してもらえよう、文書、呼びかけを行う。	1年
2	26	問題点：介護職員の必要な情報性の認識が違う点。 課題点：どうすれば客観的な視点で良い記録を共有していけるか。	次年度は、モニタリングや評価に連動し、短期目標に沿った利用者の状況を介護記録に記載する。	全職員が介護記録の重要性・意味を理解出来るように会議にて研修する。	3ヶ月
3	35	問題点：地域の方との交流が少ない点。 課題点：どのように地域との協力体制を築いていくか。	地域との協力関係を築けるように地域との交流を深める。	地域の方への避難訓練の参加の呼びかけや町内のゴミ拾いなど事業所で協力できる事は積極的に行う。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。